

受理年月日	平成27年3月2日	付託年月日	平成27年3月3日	所管委員会	第3委員会
番号	27年請願第4号				
件名	人工島関連予算案の否決について				
請願者	東区奈多一丁目6-13 博多湾会議 共同代表 脇 義重				
紹介議員	荒木、綿貫、熊谷、星野、中山				
分割付託	なし				
要旨	<p>本市は、今なお博多湾を埋め立てて人工島を造成・整備中です。来年度予算にもその整備推進費が計上され、一方で、水辺環境を保全・創造するために環境整備費や野鳥公園の基本設計費を計上する矛盾した予算案になっています。そのまま豊かだった博多湾の自然を人工島造成で破壊し、今度はその水辺環境の創造に税金を使うのは、自然への冒瀆であり市民は税金を二重に支払い続けることとなります。</p> <p>401ヘクタールの博多湾の水面が消滅し、人工島が遮蔽物となって内湾の潮流を減速させました。自然環境は激変し、水鳥の種数と生息数は激減しました。また、港湾整備も過剰投資になると指摘されてきました。市民生活に与えた影響も大きく、自然とともに暮らす街福岡のイメージが損なわれていきました。</p> <p>2012年に本市が行った人工島事業の収支見直しでも破綻が明らかになっています。抜本的な見直しを行うことなく続行され、泥沼にはまり込んでいます。造成土地が売れないという致命的な現実は、本市市政と財政を大きくゆがめています。人工島事業は造成地分譲に補助金を支給する販売方法が導入され、それでも販売できないと見るや、病院立地には不適で医療サービス低下が瞭然としているにもかかわらず、毒蜘蛛ヘアカゴケグモの繁殖が明らかになった後にも市立こども病院を移転して開院したり、市内3カ所に案分され地産と市民にサービスを提供し地域経済を支えてきた青果市場を人工島に統合移転し、吉塚にある体育館の移転計画が進められるなど、本市施設が事業破綻の穴埋めとして人工島に移転され続けています。</p> <p>私たち市民は、都市の成長が生活の質の向上につながるのの不確かさを夢想するのではなく、平和に安全に、安心して暮らしていける街福岡を願い、求めています。破綻した人工島事業に、これ以上私たちの税金を使ってほしくありません。また、市債発行残高は来年度末で2兆4,026億円、市民一人当たり162万円と相変わらず厳しい財政状況です。必要と展望のない人工島のために、借金を次世代に残すことはできません。</p> <p>本市がすべきことは、人工島事業の破綻救済に税金を使い続けることではなく、博多湾の豊かな自然とともにあって、人材が不足している福祉、医療、教育、文化に財政の重点を置く、誰もが住んでよかったと言える街づくりに専心することではないでしょうか。</p> <p>よって、下記の事項を請願します。</p> <p>1. 市長が市議会に提出した2015年度予算案のうち、100億円余の人工島関連予算案を否決すること。</p>				
審査年月日	平成 年 月 日	結 果		委員会	平成 年 月 日
	平成 年 月 日			本会議	平成 年 月 日
	平成 年 月 日			平成 年 月 日	

2015年3月2日

福岡市議会議長
森 英鷹様

博多湾会議
福岡市東区奈多一丁目6番13号
共同代表 脇 義重



2015年度予算案中100億円余の人工島関連予算案の否決を求める請願

【請願理由】

福岡市は、今なお博多湾を埋め立てて人工島を造成・整備中です。来年度予算にもその整備推進費が計上され、一方で、水辺環境を「保全・創造」するために環境整備費や野鳥公園の基本設計費を計上する矛盾した予算案になっています。そのまま豊かだった博多湾の自然を人工島造成で破壊し、今度はその「水辺環境の創造」に税金を使うのは、自然への冒涇であり市民は税金を二重に支払い続けることになります。

401haの博多湾の水面が消滅し、人工島が遮蔽物となって内湾の潮流を減速させました。自然環境は激変し、水鳥の種数と生息数は激減しました。また、港湾整備も過剰投資になると指摘されてきました。市民生活に与えた影響も大きく、「自然とともに暮らす街、福岡」のイメージが損なわれていきました。

2012年に福岡市が行った人工島事業の収支見直しでも破綻が明らかになっています。抜本的な見直しを行うことなく続行され、泥沼にはまり込んでいます。造成土地が売れないという致命的な現実、福岡市政と財政を大きく歪めています。人工島事業は造成地分譲に補助金を支給する販売方法が導入され、それでも販売できないと見るや、病院立地には不適で医療サービス低下が瞭然としているにも拘わらず、毒蜘蛛セアカゴケグモの繁殖が明らかになった後にも市立こども病院を移転して開院したり、市内3箇所に分かれた地産と市民にサービスを提供している青物市場を統合移転したり、これまで市内三か所があり、地域経済を支えてきた青果市場を人工島に統合移転し、吉塚にある体育館の移転計画が進められるなど、福岡市施設が事業破綻の穴埋めとして人工島に移転され続けています。

私たち市民は、「都市の成長」が「生活の質の向上」につながるの不安を夢想するのではなく、平和に安全に、安心して暮らしたい街福岡を願い、求めています。破綻した人工島事業に、これ以上私たちの税金を使ってほしくありません。また、市債発行残高は来年度末で2兆4026億円、市民一人当たり162万円と相変わらず厳しい財政状況です。必要と展望のない人工島のために、借金を次世代に残すことはできません。

福岡市がすべきことは、人工島事業の破綻救済に税金を使い続けることではなく、博多湾の豊かな自然とともにあって、人材が不足している福祉、医療、教育、文化に財政の重点をおく、だれもが「住んでよかった」といえる街づくりに専心することではないでしょうか。

【請願項目】

市長が市議会に提出した2015年度予算案のうち、100億円余の人工島関連予算案を否決してください。